

小水力発電機器の国産化・地域化 に向けた課題と展望

米国・イラン戦争によりエネルギーの国内供給の重要性を浮き彫りになった昨今、再生可能エネルギーへの期待が改めて高まっている。特に多くの河川や急峻な地形に恵まれた環境を活用できる小水力発電にかかる期待は大きく、事実、発電所数は年々拡大している。しかし機械産業の視点で見ると、そこで使われる機器（水車）はほとんどが輸入品で賄われている。同分野は地域に密着した中小企業に優位性があり、彼らがそのプレイヤーとなることは地域産業の振興やエネルギーの域内自給の点からも望ましいが、参入はほとんどみられていない。なぜ参入がみられないのか、国産化・地域化は可能なのか。こうした問題意識のもと現在、産学官で行われている取り組みを紹介しながら、令和7年度調査研究事業「再生可能エネルギー機器の普及促進に向けた機械産業の役割」の成果を踏まえて今後の展望について考えてみたい。

【講師】

松本大学大学院 総合経営研究科 教授
(一財) 機械振興協会経済研究所 特任フェロー

兼村 智也 氏

【モデレーター】

(一財) 機械振興協会経済研究所 研究主幹

山元 哲史

8月3日(月)
13:30~15:00

- WEBシステムによる開催(Zoom) 事前申込制(先着100名 参加費無料)
- お申込み方法

URL: <https://forms.gle/1ZmHnEkt7mkU6kKr9>

右記コードよりお申し込みフォームへアクセスし、7月29日(水)までにお申し込みください。

受講票は発行いたしません。

受講時にご使用していただく資料およびWEB会議参加証は前日までにメールにてお送り致します。

なお、ご提供頂く個人情報、当協会セミナー、講演会及び展示会関連等以外に使用致しません。

WEB会議中の画面録画や録画した映像の転載は禁止させていただきます。

